

〔報告〕

漫画等による育児体験記の内容にみられる親のエンパワー

松下 光子

To Empower the Parents in Personal Experience of Childcare in the Manga

Mitsuko Matsushita

I. はじめに

保健師は母子保健活動を通して育児支援活動を行っている。保健師の行う育児支援活動には、保健師自身が直接親子に働きかける方法もあるが、住民同士の関係性を構築することにより育児しやすい環境をつくることを目指して、地域住民の中から母子保健推進員を育成したり、育児サークルの活動を支援したりする活動もある。親は、家族や地域の人々とのかかわりの中で育児をしている。育児中の親が誰にどのようにエンパワーされているかが明らかになったならば、育児中の親にとってより意味のある住民同士のかわりを発展させることができる。

近年、漫画や日記形式等の育児体験記が多数出版されている。一般読者にとっての読みやすさという点から、親が手に取りやすく、また、育児している世代として共感をもって読まれていると考えられる。本調査では漫画やエッセイとして出版されている育児体験記の内容から、親がエンパワーされている場面を取り出し、育児中の親は誰にどのようにエンパワーされているかを検討する。

II. 調査方法

1. 調査対象

表1に示した調査時に入手できた14冊の漫画や日記形式等の育児体験記である。

2. データ収集方法

書籍ごとに、読み終わった時点でその書籍の中で親がエンパワーされていると調査者である筆者が感じた場面を思い起こして場面を確認し、育児中の親を誰がエンパ

ワーしているか、その内容は何かのメモを作成した。

親がエンパワーされている場面とは、育児中の親が前向きな気持ちになったあるいは他者から何らかの支援を受けていると調査者が感じた場面とした。

3. 分析方法

14冊分のメモの内容から、誰がどのような内容でエンパワーしているかを一覧に整理した。なお、書籍No.8と9および11～14は、それぞれ著者が同一であるため、内容の整理の際は、それぞれひとまとめにして扱った。

III. 結果

1. 書籍の概要

各書籍の内容と把握できた家族構成を表2に示した。同居家族の構成はすべて核家族である。

書籍No.2の著者は父親で、第1子が生後6ヶ月～1歳6ヶ月までの主夫の育児記録である。No.10はテレビ番組を通して結婚した2組の夫婦の体験である。1組は第1子妊娠～1歳8ヶ月で第2子妊娠まで、1組は第1子出産～3ヶ月の間に書いたインターネットのブログと育児情報、夫婦へのインタビューで構成される。この2冊以外は母親による体験記である。

書籍No.1は、育児雑誌の読者投稿入賞作品である。母親は主婦、第2、3子が双子で、生後0～1歳9ヶ月までの産後うつ状態での双子育児体験記である。No.3は、コピーライターの母親が手作りおもちゃや趣味の活動などを紹介したもので、第3子出産～1歳頃の時期

である。No.4 は、女優の第1子自宅出産～生後9ヶ月までの記録である。No.5 は、漫画家が第2子誕生から11年後に出版したもので、食べ物等項目ごとにエピソードを書いている。No.6 は、グラフィックデザイナーの母親が、第1子妊娠中～2歳で第2子妊娠までのパニック障害と神経症を持つ父親との育児を描いたものである。No.7 は、元歌手の第1子誕生～5歳までの育児日記である。No.8 と9の母親は、No.2の著者の妻で漫画家である。No.8 は第1子1歳6ヶ月～2歳7ヶ月、No.9 は、第1子4歳6ヶ月～6歳、第2子1歳10ヶ月～3歳4ヶ月の育児の様子である。No.11～14 は、イラストレーターの母親で、No.11 が第1子妊娠～生後6ヶ月、No.12 は第2子妊娠～生後6ヶ月、No.13 は第3子妊娠～生後1歳5ヶ月までを描いている。No.14 は、妊娠～小学生までのできごとを項目別にコメントしたものである。

2. 育児中の親を誰がエンパワーしているか

表3に育児中の親を誰がエンパワーしているかを書籍ごとに一覧に示した。親をエンパワーしているのは、育児の対象である児、配偶者、児のきょうだい、母方および父方祖父母、その他親戚、友人知人近隣者、保健医療専門職、育児サポートサービス、その他であった。

最も多くの書籍で挙げたのは、育児の対象である児である。1冊を除くすべての書籍で育児の対象である児からエンパワーされていると感じた場面があった。次に多いのは、友人知人近隣者で、具体的には友人、ママ友達、幼稚園の母親同士、友人の母親であった。次いで、配偶者と保健医療専門職で、保健医療専門職は小児科医、助産師、保健師、ホメオパシーの治療者、整体の治療師などであった。さらに、育児サポートサービスは幼稚園の先生、幼児教育の専門家、ベビーシッター、さまざまな教室などであった。

3. かかわる人ごとのエンパワーの内容

1) 育児の対象である児

育児の対象である児によるエンパワーの内容を表4に示した。書籍No.1、4、7、10、11～14では、子どものことを「かわいい」という気持ちがよく出てくる。No.10では、子どもの変化や成長に親が感動している。また、No.2と7では、妊娠や育児をきっかけに親が生活習慣を改善している。No.3では、何事もお母さんの仕事・役割と引き受けている。

また、No.7では、第1子が1歳になる頃次の子どもがほしいと考え、No.11でも、第1子に歯が生え噛むようになると、また母乳を飲むばかりの赤ちゃんが抱きた

表1 対象とした書籍一覧

No.	書名	形態	著者名	出版社名	出版年
1	ふたご育児ニコニコ日記	漫画とエッセイ	横山文恵	情報センター出版局	2005(3刷) (2003初版)
2	青木パパの育児伝説	日記とコラム	青木武紀	祥伝社	2007初版
3	床屋かなぶんの生活 お母さんっていうシゴト	イラスト	床屋かなぶん	赤ちゃん和妈妈社	2005初版
4	Mamma ともさかこそだてちゃん編	日記と下欄に育児用語等の解説メモ	ともさかりえ	インデックス・コミュニケーションズ	2006初版
5	ミカリンの子育てBox ぐっちとニコちゃん	漫画と写真とイラスト	堀内三佳	学研	2006初版
6	大原さんちのムスコさん 子どもが天使なんて誰が言った!?	漫画	大原由軌子	文藝春秋	2006初版
7	岸谷家の子育て1826日(の一部)	日記とコラム	岸谷香	DAI-X出版	2006初版
8	今日もお天気(すくすく編)	漫画	桜沢エリカ	祥伝社	2006(4刷) (2003初版)
9	今日もお天気(卒園編)	漫画	桜沢エリカ	祥伝社	2006初版
10	恋愛観察バラエティーあいのり新米ママ&パパ子育て日記 まりっぺ&タクローとゆり&タイジョーのドキドキ育児生活	ブログと育児情報メモとインタビュー	まりっぺ&タクロー、ゆり&タイジョー	学研	2006初版
11	笑う出産	エッセイと漫画	まついなつき	情報センター出版局	2006(78刷) (1994初版)
12	笑う出産2	エッセイと漫画	まついなつき	情報センター出版局	2002(27刷) (1996初版)
13	笑う出産スペシャル アトピー息子	エッセイと漫画	まついなつき	情報センター出版局	2003(17刷) (1999初版)
14	出産育児どーするどーなる百科	項目別解説文	まついなつき	情報センター出版局	2001(再版) (1999初版)

いと考えている。

2) 友人知人近隣者

友人や知人、近隣者によるエンパワーの内容は表5に示した。多くがママ友達、友人、幼稚園の母親同士である。書籍No.1、5、7、10では、ママ友達、友人の育児体験から、今後の育児を見通したり、自分の体験と重ねる、みんな同じと安心したりしている。また、No.1、

7では、子どもと一緒に世話する役割も担っている。さらに、No.8と9、11～14では、言葉がうまく話せず殴ってしまう子ども、アトピーがある子どもをそのまま受け止めて接してくれることをプラスに受け止めている。また、手荒れの対処方法の情報を得るといのかかわりもある。No.8、9では、小学校受験するか悩んでいた母親が、友人の母親から男の子は地元でつるんで遊びながら成長

表2 各書籍の概要

No.	内 容	把握できた家族構成
1	生後0ヶ月～1歳9ヶ月までの毎月の双子育児日記+産後うつ体験。産後うつで育児できないなど大変な状況での育児。育児雑誌の読者投稿で入賞したもの。	同居:母(著者・主婦32歳)、父(会社員)、長男4歳、次男と三男(双子) 別居:出産時は母の実家近くアパートに住む。母方祖父母の協力、母の姉と交流あり。1歳7ヶ月頃、父実家隣に家を新築。父方祖父母も協力あり。
2	漫画家の妻(8,9の本の著者)を持つ夫が、インターネットの子育て情報サイトに掲載した主夫&育児日記。第1子生後6ヶ月～1歳6ヶ月までの記録。妻が生計を支え、夫が主夫として育児。自宅出産。	同居:母(漫画家36歳)、父(著者・DJ32歳)、長男 別居:母方祖母は月2,3回来る。父方祖母は他県在住。
3	コピーライターの母の育児に関する本。育児場面のエピソードや手作りおもちゃの紹介、趣味の活動の体験など。第3子出生～1歳頃まで。	同居:母(著者・コピーライター30代後半)、父(あまり登場しない)、長女4歳、長男1歳、次男0歳
4	女優の育児日記のような本。第1子の自宅出産～生後9ヶ月までの記録。かなりベビーシッターに来てもらっている。	同居:母(著者・女優)、父、長男
5	漫画家の子育て本。食べ物、洋服、医療など項目に分けてエピソードを書いている。第1子誕生、第2子誕生から11年後の出版。	同居:母(著者・漫画家)、父(CGデザイナー)、長女、次女 別居:母方祖父母、母の弟と妹、父方祖父母、父の妹
6	パニック障害と神経症を持つ父親との第1子の子育ての漫画。長男妊娠中～2歳頃までで第2子妊娠までの状況。	同居:母(著者・グラフィックデザイナー31歳)、父(ライター33歳、パニック障害と神経症、睡眠剤使用)、長男
7	元歌手の育児日記。夫は俳優。長男誕生～5歳で、長男1歳時に第2子(長女)妊娠。ずっと歌を歌うと思っていたが、妊娠。仕事に集中できず、育児に専念することを選択。2006年には、再び歌手活動を開始。	同居:母(著者・歌手)、父(俳優)、長男、長女
8	2の本の母親が書いた漫画。第1子1歳6ヶ月～2歳7ヶ月が8、第1子4歳6ヶ月～6歳、第2子1歳10ヶ月～3歳4ヶ月が9。	2に加えて、同居家族に第2子の長女
10	テレビ番組を通して結婚した2組の夫婦の育児日記。1組目中心で、第1子妊娠～1歳8ヶ月で第2子妊娠まで。2組目は第1子出産～3ヶ月まで。本人たちのブログ、育児情報、インタビュー。取材情報を集めてまとめたもの。	1組目:同居:母、父、長男 2組目:同居:母、父、長女
11	11はイラストレーターの母の妊娠・結婚～第1子生後6ヶ月まで。12は時期が不明確だが、前半は第1子の育児、後半は第2子妊娠～生後6ヶ月頃の2人の子どもの育児。13は第3子妊娠～1歳5ヶ月まで。三男はアトピーあり。	同居:母(著者・イラストレーター33歳)、父(写真家33歳)、長男、次男、三男
14	14は11-13の著者がまとめた育児書のようなもの。妊娠～小学生までのできごとを項目別にコメント。	

表3 誰がエンパワーしているか

No.	兄	配偶者	兄の きょうだい	母方 祖父母	父方 祖父母	その他 親戚	友人知人 近隣者	保健医療 専門職	育児サポート サービス	その他
1	○	○	○	○	○	○	○	○		
2	○							○	○	
3	○									○
4	○	○					○	○	○	
5	○						○		○	
6		○			○					
7	○						○			○
8, 9	○	○					○	○	○	
10	○						○			
11～14	○	○	○	○	○		○	○		○

するものだという考えを聞き、受験をやめる決断をした。少し先輩の母親の体験に基づく育児の考えが母親に影響した場面であった。

3) 配偶者

配偶者によるエンパワーの内容は表6に示した。配偶者は全て父親である。書籍No.1では不安定な状態の母親の話を聞く、ともに育児を行う、No.4では母親が父親の前で泣く、横に寝ていると安心すると述べ、No.11～14でも母親の話を聞き動じることなく対応するように、母親の精神面の支えとしての父親が示されている。また、No.1、6、11～14では、父親が具体的に育児を担っている。No.8と9では、夫婦で話し合って育児の中でどのようにするかを決めている。No.2は、父親による育児体験記であるが母親によるエンパワーの場面は捉えられなかった。

4) 保健医療専門職、育児サポートサービス

保健医療専門職と育児サポートサービスによるエンパワーの内容を表7に示した。

保健医療専門職では、まず、小児科医等の医師は、書籍No.1、4、8と9、11～14において、健診時のアドバイス、乳児湿疹の相談、アトピーの対応方法に助言をもらい除去食にこだわらない方針を親がはっきりさせる、10円玉を飲み込んでしまった時に受診などである。助産師が挙げたのは、No.1、2、4で、母親は助産師を信頼し、うつ状態の時に話を聞いてもらい、母乳や児の発達、健康状態などを相談している。ホメオパシー、整体などの療法も活用し、健康にかかわる気がかりについて相談している。保健師は、No.1と11～14で挙がり、家庭訪問で話を聞く、子どもの成長の確認、今後の見通しを伝える、健診場面で医師との間に入って気を使うといった対応である。No.11～14では、説明をきちんとしてくれる医師をよい医師と述べ、また病院の雰囲気がよいかどうか母親は判断している。

育児サポートサービスでは、書籍No.5、8と9において幼稚園の先生が挙げた。幼稚園で子どもがよくけんかし、親の対応を変えるよう助言を受けて子どもが落

表4 児によるエンパワーの内容

No.	内 容
1	大変と言いながらも、かわいい、かわいいという表現が常に出ている。漫画に整えたからか。
2	しつけは特別なことではなく、親がよいマナーや生活習慣をして子どもに示すことが大事と考え、家族が規則正しい生活をしたり、言葉遣いに注意する、また、母乳のために母親が食事制限をするなど子どもを家族に迎えることに前向きに取り組むことが、両親の生活全体の整えにつながっている。
3	3人の育児で大変という印象はなく、何事もお母さんの仕事・役割としてまとめている。
4	子どもがかわいいというのが常に表現されている。
5	この10年間「肝っ玉母」を養成するためのトラの穴に入っていたかのような日々、と書いている。
7	とにかく子どもがかわいいと言うことが常に出てくる。子どもの成長していく姿に感動して接している。妊娠中～授乳中は、食事に注意し、禁酒、禁煙。タバコはやめてしまったが、飲酒は、卒乳とともに再開。子育てによって、規則正しい生活リズムになった。
8, 9	薬に反応したり、子どもの意思を表現したり、その反応を捉えてよい悪いを夫婦で判断している。
10	子どもがかわいいという気持ち、子どもの変化・成長（1つ1つのことができるようになっていくこと）で親も感動している。
11～14	かわいいということと、変化していったおもしろいということ。

表5 友人知人近隣者によるエンパワーの内容

No.	内 容
1	ママ友達：手あれの際の対処情報、児童センターでさりげなく子どもを見てくれる、おしゃべり、ちょっと先に行く双子ママの今後の見通し情報。
4	友人：食事をしたり、プレゼントをもってきたり、交流したり。
5	友人・ママ友達：女の子と母親はライバルになるとか、これから子どもがどうなるかという体験をいろいろ聞いていて、自分の体験と重ねている。
7	ママ友達：育児の体験を話し合っている。父親と3人で出かけることは困難で、ディズニーランドにはママ友達といっている。
8, 9	幼稚園の母親同士の交流。まわりのこどもを殴ったりしても、周囲の母親は、遅生まれで言葉がうまく話せないためと受け止めてくれている。友人の母親：小学校を受験させるかどうかで、男の子は地元でつるんで遊びながら成長するといわれ、公立小学校に行かせることが腑に落ちた。
10	ママ友達：みんなと同じ、大丈夫と言われると安心。
11～14	友人たち：大騒ぎせず、普通に接してくれることがうれしい。アトピーでかわいそうというレッテルを子どもに貼られたくない。

ち着く、育児方針に感動するという場面である。No.8と9では、幼児教育の専門家の講演を聞き、その後に個別面談を申し込み、お受験をやめるよう説得される場面もある。No.2では、さまざまな教室に参加して勉強し親としての方針を持つ、No.4では、母親の仕事中はベビーシッターが児の世話を担っている。

5) 児のきょうだい、母方および父方祖父母、その他親戚、その他

児のきょうだいでは、児の兄が書籍 No.1 と 11 ～ 14 の中で年下のきょうだいをかわいがり育児を手伝っている。

母方および父方双方の祖父母は、書籍 No.1、11 ～ 14 で挙がった。No.1 では、うつ状態の母親の育児を直

表6 配偶者によるエンパワーの内容

No.	内 容
1	父親は帰宅が遅い中で、文句を何も言わずに夜間の育児を担い、支え続けた。エッセイの中で、父親は、育児をともに戦った同志である、母親と同じように育児を担ってきたので、子どもの発達と一緒に感動できる、2人にとってよい体験だったと母親が書いている。父親は、母親の精神状態の変動をそのまま受け止めて対応している。次のような場面である。双子が泣いても起きないが、母親が泣くとすぐに起きる。母親が夜間授乳しようと準備を始めると父親も起きて様子を観察し、母親がミルクはつくっても子どもに与えられないとすぐに授乳を代わる。新しい家に引越して母親は閉じこもり生活になり、精神状態が悪化し、朝の父親の出勤時に行かないでと泣いたときに仕事を遅刻してゆっくり話を聞く。
4	寝室を別にして父親が眠れるようにと配慮しているが、夜間授乳で孤独感が募ったときなど夫の前で泣いたり、子どもの成長に感動して一緒に泣いたり、夫の横だと安心して眠れるなど、気を使いながらも頼りにしている印象。子どもをベビーシッターに預けて2人で外出を楽しんだりもしているが、結局子どもが気になると書いている。
6	父親は、ライターと称して家で過ごしているため、妊娠前から母親が外で働く生活。父親が育児・家事を実際に担っている。
8, 9	どうするかについて、夫婦で話し合っ方針を出している。
11～14	父親は会社員と違い時間がある程度自由になる。生後2ヶ月までは、家事と育児を中心の生活。親子3人で、育児を中心とした生活をしている。また、何があっても動じない感じで、母親の言うことを聞いている。何があってもあわてることなく、普通に対処している。

表7 保健医療専門職・育児サポートサービスによるエンパワーの内容

No.	保健医療専門職	育児サポートサービス
1	小児科医：健診時等のアドバイス。 助産師：うつの時じっくり話を聞く。母が信頼している。 保健師：家庭訪問して話を聞く、子どもの成長の確認、今後を伝える。	
2	自宅出産を支えた助産師、ホメオパシーの治療者など：発達や健康に関する助言を得ている。	さまざまな教室：妊娠中から参加し、妊娠・出産について調べて自分たちで勉強し、方針をしっかりと持って出産・育児に対処している。
4	クニリック、助産師、ホメオパシー、整体：乳児湿疹、母乳など、すぐに相談して対応している。	ベビーシッター：生後3ヶ月で仕事復帰。仕事の時は、自宅でベビーシッターが児の世話。芝居を見に行くときなども、頼んでいる。何人かいるが、特に信頼しているシッターさんがおり、子どもが病気のときも世話を頼んでいる。
5		幼稚園の先生：第1子が幼稚園でけんかすることが多くなったときに、園長に呼ばれ何があったか聞かれた。通園時に子どもが好きな服を着せるようにいわれ、そうすると子どもが落ち着いた。問題のあるけんかを幼稚園の先生は見抜くと書いている。
8, 9	小児外科：児が10円玉を飲み込んでしまったときに、受診。	こどもの城での講演した幼児教育の先生：個別に話を申し込み、お受験のための習い事で子どもが夜泣きをするようになったことを話したところ、子どもの成長とはについて話され、お受験をやめるよう説得された。 幼稚園の園長：育児方針に感動。
11～14	アレルギー検診の医師：ステロイド剤、食事について説明を受けた。ステロイド剤について皮膚科では十分な説明がなく、人づての情報で考えていたが、医師からはっきりと説明を受けて納得。食事でも除去食にこだわらないでよいという方針がはっきりした。制限された食事だけでは生きていけない、誰が作ったものでも食べられるようになってほしいという方針と、除去食は不要でどう食べさせるかの知識がつながった。保健師、看護師、医師がよく出てくる。説明をきちんとしてくれる医師はよい。病院の雰囲気がいよい。保健師は、健診場面で医師とのやり取りの間に入って母親に気を使っている様子が出てくる。整体の先生：毎週通う。子どもがよく眠れるようになる。	

接助けている。No.11～14の母親は、頭では助けてくれる人と思っても第1子の生後3、4ヶ月までは親子だけでいたいと感じ、第2子以降は、母親だけではできないと最初から助けてもらう人と考えたという変化を述べている。父方祖父母のみが挙がっているのは、No.6で、父方祖父母に父親の子ども時代を教してもらい、兄とそっくりだと知るといふ場面である。

その他親戚では、書籍No.1で母親の姉である。母親は姉を信頼し、うつ状態の時、姉と電話中に姉の都合で電話を切られても自分は大丈夫なんだと気が楽になる場面があった。

その他では、書籍No.3で母親は陶芸教室、小学校の行事等、趣味や学校行事等に参加しており、クラブ活動をやろうと読者に勧めている。また、No.7では、電車の中で席を譲ってくれたおばあさんや男性に感動している。No.11～14では、他者ではなく母親自身の力である。母親自身が自分の体を信頼していること、アトピーへの対応に医師の助言も得て母親なりにはっきり方針をもつことができたこと、うつ状態になった時に入眠剤をもらうなど受診して対処できていること、子どもたちがいるから自分が死ぬわけにはいかないという思いが不安のもとになる時もあるが、人間はいつか死ぬものだから今ちゃんとものを食べて生きていくのだという方向に向かう、など母親が自分を信じて、判断し、行動し、前向きに生きていく力を述べている。

IV. 考察

1. 親は誰にどのようにエンパワーされているか

親をエンパワーしているのは、育児の対象である児、配偶者、児のきょうだい、母方および父方祖父母、叔母、友人知人近隣者、保健医療専門職、育児サポートサービス、趣味などの活動、電車の中で席を譲ってくれた人、母親自身であった。そして、それぞれにエンパワーの内容が異なっていた。

子どもは、親が一番エンパワーされる存在である。かわいいと感じて子どもの変化や成長に感動している。また、第1子が幼児に近づくと母親は、また赤ちゃんが抱きたい、次の子どもがほしいと考えている。さらに、妊娠や育児をきっかけに、禁煙・禁酒、親自身がマナーを意識した行動をするなど、親自身の生活を改善してい

る。このことも、子どもという存在自体が親を変化させたと言える。

次に、配偶者は、精神面の支え、育児をともに行う、ともに考えて決断する、という形で支えていた。下敷領ら¹⁾の調査では、母親が夫から受けた精神的な支援として、愚痴を聞いてくれる、子育てについて一緒になって話してくれる、何をしてくれるというわけではないが居てくれるだけで精神的に楽になるという内容を挙げているが、今回捉えた支援も同様であった。また、今回は、父親が自宅に居て直接育児や家事を分担する例が多かった。産後1～4ヶ月の母親意識を高めるには夫の育児協力が必要との報告²⁾がある。特に母親がまだ育児に慣れず、一つひとつ悩む時期であり、睡眠不足で疲労がたまる時期である生後2ヶ月頃まで、父親が育児休暇をとり母親と一緒に家事や育児に没頭できると、非常に母親の助けになると思われた。また、直接育児や家事を担うことは、父親にとって子どもへのより具体的で生き生きとした肯定的な感情を増すと考えられている³⁾。父親が育児や家事を担うことは、夫婦で親として成長し、子どもを含む家族のつながりを強化すると言える。しかし、実際に母親の支えとして活躍するためには、父親が家事能力を身につけている必要がある。

児のきょうだい、祖父母、叔母の親族では、直接育児を手伝う、信頼する関係の中で安心するという支えになっていた。しかし、核家族での育児が多かったためか、場面は少なかった。

さらに、友人知人近隣者、特にママ友達は、具体的な体験を共有する、みんな同じと安心する、疾患をもったり周囲をうまくかわれなかったりする子どもを特別視せず受け入れて普通に接してくれることが支えになっていた。また、少し先輩の親から諭されるというかわりもあった。今回は、育児中の親同士が交流する育児サークルの場面は取り出せなかった。職業をもつ母親が多かったためかもしれない。

専門職・サービスでは、医師、助産師、ホメオパシーの治療者、整体師等は、親は健康や育児に関して相談し、対処方法の選択に役立つ明確な知識や助言をそれぞれから得ていた。特に、助産師は、妊娠・分娩・育児を通してかわり、非常に信頼されていた。幼児教育や保育の専門家は、集団生活、保育や教育と子ども、その子の特

徴という観点から親に助言していた。

趣味等の活動、電車で席を譲ってくれた人等とのかかわりも母親の生活の拡大や人とのかかわりを考えるきっかけとなっていた。

2. 親のエンパワーを促すかかわり

今回、親がエンパワーされている場面として、育児中の親が前向きな気持ちになった場面、他者から何らかの支援を受けていると感じた場面とした。しかし、それらの場面から、親が自分たちはどうするのかを決断できることが大事なのではないと感じた。例えば書籍 No.8 と 9 で、友人の母親の考えを聞き、小学校受験をやめる決断をする、No.11 ～ 14 で医師からアトピーの対応方法に助言を得て除去食にこだわらないという方針をはっきりさせるという場面がある。また、配偶者によるエンパワーの内容には、ともに考えて決断するがある。さらに、No.11 ～ 14 では、母親自身が自分を信じて、判断し、行動し、前向きに生きるという場面があった。育児は、親としてどのようにわが子の世話をするかという小さな決断の積み重ねと考えられる。親は悩み、情報収集し、相談し、決断し、実施することを繰り返し、新たな悩みや疑問に対処する力がつくと考えられる。決めることはエネルギーが必要であり、書籍 No.1 の母親のように精神的に不安定であると、それは非常に負担になると予測される。

以上から親のエンパワーとは何かを再び考えた時、親が親として自分の体験から自信をつけ、内面から力をつけていくことが重要ではないか、と考えた。その結果としてより主体的に問題解決に取り組むことができる。

親になるということは、具体的な育児という技術習得を伴う新しい役割を担う自分になるということである。野島⁴⁾は、子ども家庭福祉におけるエンパワメントは、元々その人がもっている潜在的な能力を引き出すことで、その人の主体性を確保するプロセスであるとしている。親のエンパワーとしてめざすことは、親が元々持つ力を生かしながら、育児に必要な知識や技術を身につけ、親という役割を自ら引き受けて主体的に問題解決できるようになること、そして、親という役割を自分の人生の中に統合しつつ、一人の人間として自分の力を発揮して生きていくことができるようになることと言えるのではないだろうか。

そのような親のエンパワーを促すためには、まず、親が育児の知識や技術を得ることや育児の手助けを得ることを通して、他者に相談しながらも親自身が決めていくことができるようになる姿を確認することが必要である。それに加え、親が家族や地域の中で暮らす一人の人として認められ、自分の気持ちを話すことができる人間関係がもてるよう支援することも必要ではないかと考える。特に地域住民のかかわりでは、親自身を気にかけて声をかけてくれる他の住民がいることや趣味等のつながりといった人間関係をもつことも意味があるのではないかと考える。

V. おわりに

今回調査対象とした漫画や日記形式の育児体験記は、日常のひとこまが書かれ、場面がイメージしやすいものであった。育児に前向きな親が多く、育児のよい面が表現されていると感じた。父親は仕事が多忙で、母親一人が育児に取り組む体験についても検討できるとよいと考える。また、父親の育児体験記も出版されているので、父親の育児体験についても検討したい。

本調査は、平成 17 ～ 19 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 親のエンパワメントを促進する育児環境づくりの方法の開発 (研究代表者: 北山三津子) の一部である。

文献

- 1) 下敷領須美子, 宇都弘美, 佐々木くみ子, 他: 奄美群島における子育て支援の実態—保健師・母親への聞き取り調査を基に—; 母性衛生, 47(1); 171-197, 2006.
- 2) 植村裕子, 内藤直子: 出産から育児期へ過渡期における母親意識の研究—夫の育児協力による影響の比較—; 香川県立保健医療大学紀要, 2; 69-77, 2005.
- 3) 柏木恵子, 若松素子: 「親となる」ことによる人格発達: 生涯発達の視点から親を研究する試み, 発達心理学研究, 5(1); 72-83, 1994.
- 4) 野島正剛: 保育者のソーシャルワーク, カウンセリングと家族支援—親のエンパワメント—; 上田女子短期大学紀要, 28; 41-50, 2005.

(受稿日 平成 20 年 9 月 24 日)

(採用日 平成 20 年 12 月 24 日)